

(縁・円・援)



兵庫えんだより

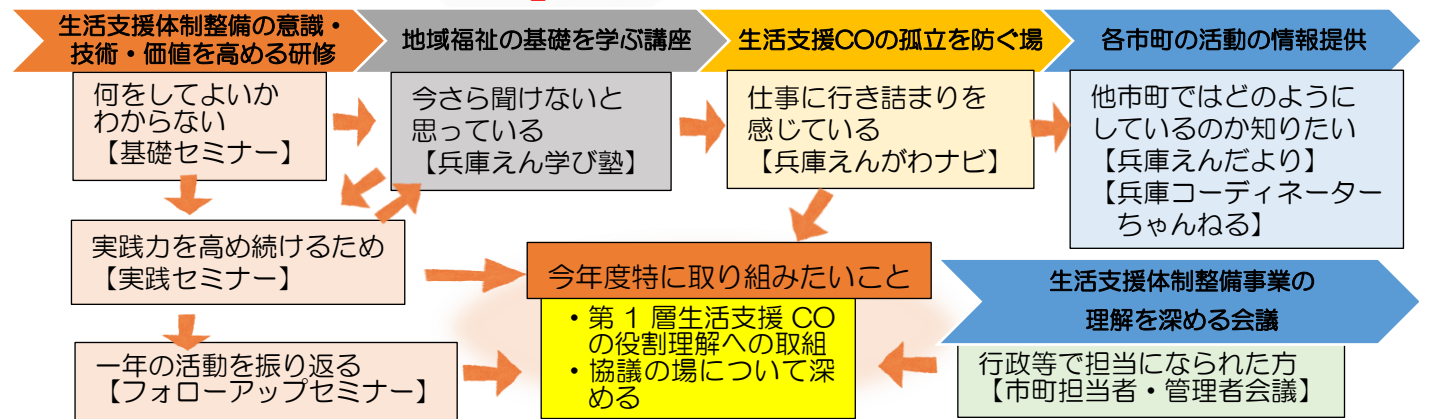
このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～さあ、新年度だ、動き出そう！～

さあ、新年度が始まります。生活支援体制整備事業も8年目を迎え、各市町の取り組みはコロナ禍でも、さらに活発に動き出そうとしています。このような中で、生活支援コーディネーターへの期待も高まっています。昨年度は、研修体系を各方面のみなさまの力をお借りして作り上げることができました。今年度は、さらに、充実した活動ができるようにしていきたいと考えています。

令和5年度生活支援COの研修等の仕組み 「だれもおいていかない」をめざして

「だれもおいていかない」これは、生活支援CO養成にむけた思いです。県社協では、これからも、このメッセージを大切に続けます。



令和4年度生活支援コーディネーターフォローアップセミナー開催 ～ゼロ層（県行政・県社協）のもやもや～

POINT

県の立場ではなく、ゼロ層のいちワーカーとしてのもやもやや、感じていることを語る。仲間として聞いてほしい（竹端氏）

最初の全体会



講師：兵庫県立大学 准教授 竹端 寛氏

着任当初はわからないことも多かった。企画会議議長をはじめ生活支援COから話を浴びるように聞き、調べ、学び、考えることを繰り返した（福本）

担当して一年目、言語が違うと感じることがあった。しかし、ネットワーク会議やえんがわナビで市町の生活支援COなどに教えてもらった（増山氏）

登壇者：兵庫県高齢政策課 増山 香里氏
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠

POINT

ネタ晴らしをすると、僕のがっていたことはCOの仕事。参加する人の最大限の力を引き出すこと（竹端氏）

最後の全体会



わからないことはわからないと認めながらも、地を這ってでも前に進むという自分なりの決意表明を、衆人環視でさせてもらった（福本）

今までの業務では、自分のもやもやを話すことはなかった。「言語が違う」と話すと参加者からの共感や反応が大きくほっとした（増山氏）

POINT

最後、ゼロ層、1層、2層、立場関係なく、つながること、ネットワークができればよい（竹端氏）

【発行元】（令和5年4月7日発行）

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

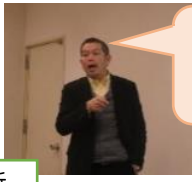
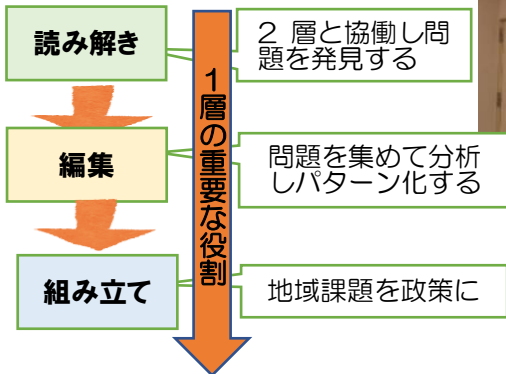
E-Mail:seikatsushien@hyogo-wel.or.jp（担当：富永・永坂）

それぞれの分科会での気づき

第1層分科会

そうか！一層は問題等をパターン化して政策にするのか！

(竹端先生の資料参考)



POINT
1層 CO の大事なところは問題の発見から分析し政策課題、事業課題の設定、事業評価ができるところ。



見立てができると未来が見えてくる！

行政からやらされているのではなく、住民さんたちの夢をかなえようと思う。



4月から突っ走って来た。これでよかったんだと自信が持てた。

プロセスも夢も戦略



POINT

ワーク:「5つの手法」で一年間を振り返ってみよう



○自分の一年間を振り返って「5つの手法」で思い出してみました。
(夢は最初でも最後でもよい)
○そして、さらに「いつ」「どこで」「だれと」「なにを」と深めました。

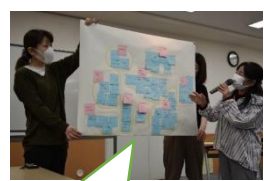
ネットワーク委員のアドバイス

- できていないのではなく、何度も行ったり来たりしている。
- 言語を見える化する過程に重みがある。
- 活動を整理する際、出にくいところは弱かったり、つまづいているところ。意識的にしてみよう。

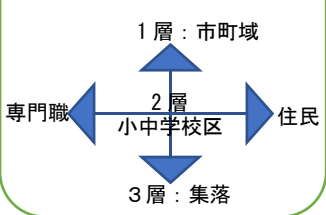
第2層分科会

協議の場はいっぱいある！でも、定例の協議の場の参加者を増やすの難しい。

ワーク1:協議の場とその意味(位置づけ)を考える



圏域や住民と専門職で分類



意識の違いで分類

組織化された住民主体・やらされ感あり・意識高め・緩やか組織・うまれたてぼやぼや・専門職の会議等々

ワーク2:定例の協議の場に参加者を増やすために



専門職主導で何かしようとすると住民は来ない。会議になると固まってしまう。

組織された会議の人がいない。しかし、こども食堂や餅つきになると人であふれる。地域に対して無関心ではない。

地域の困りごとを知っていたのは自治会長ではなく、100歳体操の参加者だった。

そもそも何のために協議をしているのが大事。それを住民の皆さんは見失っているかもしれない。

POINT

主体性を高めるために協議の場がある。その先の困っている人のためにどうやって力を合わせるのか、その一つに協議の場がある。

《兵庫県高齢政策課からのお知らせ》

外出自粛による心身機能の低下やつながりの希薄が懸念されます。感染防止対策をしたうえで取り組みのさらなる推進をお願いいたします。

<通い場等の取組を実施するための留意事項>
(R5年2月版)厚労省から通知がありました。一部見直されておりますので、下記URLにて詳細の確認をお願いいたします。

<https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/tuuti1432.pdf>

【変更点】(詳細は新旧表をご確認ください)

【編集後記】

一年間の研修が終わりました。昨年度は、ネットワーク企画会議のメンバーとともに研修の企画運営を行うことで、実践に即し、なおかつ、ゼロ層から2層までつながっていくことの重要性を認識した取組でした。そして、今年度は「だれもおいていかない」を目指していきます。これは、ゼロ層から地域住民につながる手立てだと思っています。